千葉明徳短期大学保育創造学科　2014年7月号

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く”　明徳の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

共有する
つながる

夏休みを前に、学生たちは試験やレポートでそれまでの学びを振り返る時期になりました。学んだことが自分の中でどうつながったのか、また、それを仲間たちとどう共有したのか、といった積み重ねは、保育の現場に出てからも続きます。

本学でも、現場から得られた経験や知識を保育者の間で共有し、共に学び合うための講座を開催しています。今月号では、「共有する/つながる」をテーマに、短大の枠を越えた学びについて紹介します。

特集　めいトーク保育講座

（P.2－5）

学年を越えた７月（P.6－7）
共有する学び
「鳴沢真也先生を迎えて」

２年生の７月（P.8－9）
つなげる学び
「『教育実習（幼稚園II）』を終えて」

教員からのおすすめ（P.10）

卒業生の今
中西 結香さん（P.11）

学生ページ（P.12）

!hot news!
今月の明徳速報（P.13–15）

特集　めいトーク保育講座

本学では、現役の保育者の方々と保育について考える「めいトーク保育講座」を行っています。本講座の担当である片川先生からの報告です。

めいトーク保育講座２０１４　ご報告

片川 智子

去る６月28日（土）に、「めいトーク保育講座」が行われました。めいトーク保育講座とは、主に千葉県内の保育関係者を対象とした講座で、保育現場で働く多くの先生方と共に学び合う機会となっています。毎年、６月の最終土曜日に開催し、今年で13回目を迎えました。今年度は**「現場で学び続ける　～協同と継続～」**を全体のテーマとし、幼稚園・保育園・施設の先生方が集い、一日かけて話し合い、考え合いました。学生も２名が参加、現場の先生方に交じって学んでいました。

一日の構成は次の通りです。

午前：公開保育　（千葉明徳短期大学附属幼稚園）

午後：話題提供及び分科会（４つのテーマに分かれて）
分科会テーマ・遊びの質を捉える
・行事の見直し
・労作と課業
・児童発達支援

全体講演　講師　青木久子先生　（青木幼児研究所）

公開保育では、参加者全員が附属幼稚園の日常の保育を見学しました。晴れの日には登園してすぐに外に飛び出して豊富な自然の中で遊ぶ子どもたちですが、当日はあいにくの雨で、基本的には室内での遊びになりました。多くの見学者がいたにも関わらず、園舎内の様々な場所で子どもたちが思い思いに遊ぶ姿を見ることが出来ました。

その後分科会では、幼稚園の先生方の話題提供と、テーマ別グループに分かれての話し合いを行いました。最後に全体講演をいただいた青木久子先生は、附属幼稚園の園内研修の講師もされており、附属幼稚園の保育実践を軸に一貫した視点で学びを深めることが出来たのではないかと思います。

ここで、「遊びの質を捉える」をテーマとした分科会の話題提供と、参加者の方々が話し合われた内容を少しだけご紹介します。

＜話題提供＞では、附属幼稚園の先生方から、３歳児、４歳児、５歳児それぞれの遊び、先生方の関わりと遊びの発展の実際が紹介されました。３歳児では、乗り物コースでストライダーや三輪車に乗る遊びに、保育者がベンチやガソリンスタンドを設置することで子ども同士のやりとりや秩序が生まれたという実践が話されました。４歳児では、作品展に向けての全体での活動である人形作りに、少人数で取り組む様子と、人形の衣装の素材の種類を増やしたことで、子どものイメージが広がった過程が話されました。５歳児では、台風の翌日に大量の銀杏が落ちていたことから子どもが興味をもち、子ども同士で様々な工夫をしながら銀杏屋さんを作り、実際に売って最終的に絵本を購入するという遊びの発展が紹介されました。特に、５歳児の「銀杏会社」プロジェクトでは、子どもたちが自ら銀杏を200ｇずつ袋詰めしたり、チラシやチケットを作ったりなど、身近な環境を取り入れながら自分たちで考えたり、友だちと協力したりする姿がありました。保育者は極力、直接助言したり手伝ったりすることを控えられていたそうです。

この話題提供を受けて、参加者同士で次のような＜話し合い＞がなされました。

・３歳児のストライダーや三輪車の遊びで、乗り捨てが減ったということは、子どもがイメージをもって遊べるようになったということではないか。（参加者の）園では、三輪車等で移動した先で他に興味のあることを見つけると、降りてそのまま乗り捨ててしまう姿が多いので、環境設定を考えてみたい。

・個々の子どもが、乗り物に乗って何を楽しんでいるのかにもよるのではないか。話題提供にあったようにイメージを持ってコースを走ることを楽しむ場合もあれば、移動手段として乗る場合もある。乗って遠くに行くことが楽しい場合もあるかもしれない。

・話題提供にあった乗り物コースでの遊びでは、環境が変わることで子ども自身の個の充実と、子ども同士の関係による遊びの広がりがあったように感じられた。

・私は、子どもの遊びに関わる時に、子どもの言葉を聞き取るように心掛けている。子どもがどんなことに関心を持っているのか、何を楽しんでいるのかを捉えたい。

・５歳児の銀杏会社プロジェクトでは、保育者が子どもの関心と「銀杏屋さんにしよう」という発想を見逃さずに拾っていた。

・自分たちで考えて遊びが広がることを大切にしたい。けれど、保育者の手助けが必要かなと迷うこともあり、どこまで介入していいのかの見極めは難しいと感じている。

・保育者によって、子どもの関心の読み取りや援助の判断は違うので、話し合いをしていくことが必要だと思う。

いかがですか？　学生の皆さんは、実習や学内の授業で学んでいる「子どもの関心や遊びの読み取り」「保育者の意図的関わり」等について、実際に現場の先生方が毎日の保育の中で考えられていることが想像出来たのではないでしょうか。保育者になっても、いやむしろ保育者になってからは更に本格的な学びが続いていきます。２年生は来年、是非卒業生として、保育者として「めいトーク保育講座」に参加して下さい！　１年生も、現職の先生方の学びの場に参加しませんか。貴重な機会になるはずです！

もう一つ、「児童発達支援」分科会について触れたいと思います。めいトーク保育講座では、これまで幼稚園保育園等の「保育の部」と、福祉施設を中心とした「施設の部」とに分けて構成していました。今年度は、これらを一つにして、子どもに関わることを職とする人々が様々な角度から共に考え合えることを目指しました。この分科会では、児童発達支援センター　つくも幼児教室の武井一枝先生と、同じく児童発達支援センター　とらのこキッズの奥山裕美先生が話題提供をして下さり、幼稚園保育園の保育者、発達支援センターの職員等様々な立場の方々が参加して協議が行われました。

最後に、多くの人が見学する公開保育は、公開する幼稚園の先生方にとってとても大変なことです。また、附属幼稚園の先生方は話題提供のために日々準備をされていました。附属幼稚園の多大なご尽力に感謝すると共に、幼稚園、保育園、施設、短大が連携し合い保育を考え合っていくことで、それぞれの保育がより充実し、短大での教育内容としても学生の学びに繋げていきたいと考えています。

学年を越えた７月

鳴沢真也先生を迎えて

７月16日（水）、本学２年生の一般教養科目「現代社会論」を担当する渡辺泰子先生のご提案を発端に、兵庫県立大学から天文学者の鳴沢真也先生（日本では数少ないSETI研究者のお一人）をお招きし、高校の体育館にて、２年生だけではなく、１年生も、そして天文台のある中学校の生徒たちをも巻き込み、先生の講演を受けました。この日を迎えるにあたり、学年を越え１・２年生の有志学生が共に運営を進め、理事長に依頼し天文台ツアーを企画・開催したり、他の学生たちにも伝わるよう先生の紹介ポスターの掲示や、図書館で先生の著書紹介をしたりと取り組んできました。当日は、学生が司会を担う中で、鳴沢先生の講演を拝聴しました。ここでは、現代社会論のアシスタントを務める石川優子さんから、今回の企画についての思いをうかがいました。

１・２年生が学年を超えて同じテーマで学ぶことを目的に今回の企画を実施しました。テーマの検討を重ねる中で、渡辺先生（現代社会論の担当教員）から、鳴沢先生をご紹介いただきました。宇宙というテーマから、天文台のある中学校との連携も探り、今回は短大、中学校との合同で講演を聞くこととなりました。

講演内容はとても興味深く、講演の中で、鳴沢先生は「宇宙人探査は、世界平和にもつながる」ともおっしゃっていました。地球を見渡してみると、考え方の違い、宗教の違い、人種の違い等様々な違いから戦争が起きているけれど、広い宇宙の中から見た地球は砂粒のような小さな星、もし、宇宙人がいて、私たちのことを見たらどう思うのだろうか、とおっしゃっていたことが私は印象に残っています。戦争ではなくても、私たちは身近なところで、考え方の違い、価値観の違い等に出会った時、合わないと言って関わることを辞めていないだろうか、わかり合おうと歩み寄ることはしただろうか。“私”と違うからと言って、始めから避けていなかっただろうか。違うと思っていたことでも、視点を変えて考えてみると、わかり合えるかもしれない。鳴沢先生の講演を聞きながらそんなことを考えていました。今回の企画は、保育とは関係のないテーマで、なぜ行ったのかと疑問に思っ

た学生もいたかもしれません。暑い中で集中して話が聞ける環境ではなかったけれど、それでも、何か感じたことはありませんでしたか？　一見、関係なさそうなテーマであっても自分に引き寄せて考えてみた時に、自分の関心とつながったり、それが保育とつながることもあり、それが学びになることもあると思います。

また、今回、準備から当日の運営まで、学生で有志をつのって行いました。今回は主に運営を行いましたが、２年生の現代社会論では、やりたいと立候補すれば、学生企画の授業も行います。授業は受け身でいるものではなく、学生が参画し、共に創られているものもあります。２年生は後期に、１年生は来年度、今度は自分たちで企画・運営して授業を創ることをぜひ想像してみてください。

～運営・司会を務めた学生の記録～

運営スタッフ

２年生：内堀夢寿加、中島由美、花香有佳里、廣瀬智実　　１年生：江口愛花、小木曽一公、鎌形なつみ、岸田美夏、妹尾明希、髙尾麻衣子

＜講演の流れ＞

・宇宙の誕生から生命、そして知的生命体の誕生まで
・宇宙人はいるのか
・どうやって探すのか
・宇宙人はどんな姿をしているのか
・なぜ探すのか

☆100,000,000,000個以上存在する銀河、星の数…どこかに宇宙人はいるだろう。しかし、知的なものへの進化は難しいと言われている。
☆宇宙人を探すには…電波をキャッチする。地球最強の電波は3000光年まで送ることが出来る。
☆宇宙人は誰も見たことがない、人間もそれぞれひとりひとり違うように、宇宙人もそれぞれ違うであろう。
☆人間の故郷は皆同じ、アフリカだった！（説）

地球外知的生命体探査のお話は、宇宙の話だけではなく、生物の話まで幅広く、時に冗談も交えつつ楽しくお話して頂き、凄く貴重な経験をさせて頂きました。

私たちがこの宇宙でどれほど貴重な存在なのか知るために、宇宙人を探しているとおっしゃっていたのが印象的でした。また、鳴沢先生の本から、諦めなければ夢は叶うということを教えて頂きました。

鳴沢先生のお話はとてもわかりやすく、遠い存在だった宇宙に近づくことができました。宇宙人はどこかにいると思います！

１、２年生がみんなで協力分担して料理を作って食べたこと、とても楽しい時間でした。中学校に初めて入り、設備の良さにも驚き、天文台の素晴らしさにも触れることができました。

今回、鳴沢先生のお話を聞くにあたり、天文ツアーを企画し、参加しました。普段見ることのできない天文台を見ることが出来て、貴重な体験になりました。

天文ツアーは、間近に望遠鏡を見られて、とても楽しかったです。実際に星は見られなかったので、また機会があれば参加したいです。

天気が悪く、星は観られなくて残念でしたが、中学校にある天文台がとても大きく、望遠鏡のスケールや自動装置に驚きを隠せませんでした。

【鳴沢先生の著書】
「宇宙人の探し方」幻冬社、2013.
「ぼくが宇宙人を探す理由」旬報社、2012.　等

２年生の７月

つなげる学び

「教育実習（幼稚園II）」を終えて

石井 章仁

本学の実習教育は、幼稚園、保育所、施設の全てをつなげて考えており、学生にもそこを意識するよう働きかけています。また、実習には良い意味でも悪い意味でも“学生自身”・“学生その人”が全て出る傾向があります。特に今回の実習は３週間という長期の実習でもあり、素の自分を隠し通して行うことは難しく、自身の良さと課題がどこかの場面で出てきたことと思います。これまでの実習場面で垣間見られた、そうした良さと課題をどう捉え、考えて取り組んだか、また次の実習に向けて何を意識したのかがこの実習の成果であり、部分実習や責任実習をやり終えたことや、つつがなく実習を終えたことよりも、大きいと考えます。

教育実習では、４月から６月上旬までの２か月間に事前指導を行いました。事前指導では、特に「がんばりファイルの作成」を行いました。ファイルには「がんばり表」「日記」「ピアノ」「指導案」などの自己課題を一つひとつ積み上げながら準備をすることを目的としています。授業を１／３とすると、それ以外の自己学習を２／３として、個々の意欲の高まりを期待しました。また、事後指導は、実習終了後に２週間、保育方法演習とも協同しながら行いました。７月７日（月）には、実習園の先生方をお招きし、実習の成果を発表する機会を持ちました。

■ 学生の発表レポートの一部から

Sさん

数人で氷オニをしている時のことでした。私はオニになり、子どもたちを追いかけていたのですが、氷オニをしていた子ども以外の子どもも私のことを追いかけていました。とてもニコニコして楽しそうでした。私は不思議に思い、声をかけました。すると、私から少し離れていきました。この時に少しまずいかなと思いながらもそのまま続けていると、Ｓちゃんは私の後について走っていました。表情もニコニコしていたし、笑いながら私の後について走っていて楽しんでいるように見えました。（中略）その後も何度か園庭でオニごっこなどをして遊ぶ機会がありましたが、やはり私の後について走り楽しんでいる姿が見られました。（中略）木にはたくさんダンゴムシがいて、一匹手に取りＳちゃんに見せてみました。怖がりながらも興味を持ってくれたようでした。「ダンゴムシさんのおうち見つけようか」と声をかけ切り株に放すと、ダンゴムシは穴に入っていってしまったのですが、その様子を見てＳちゃんは「穴に入っちゃった。わー」と楽しんで、その後「Ｓ先生、ダンゴムシ捕まえてこようよ」と私に言ってくれました。（中略）ダンゴムシを捕まえては切り株に放すということを何度か繰り返して楽しみ、普段とは違う関わりができました。

Ｓさんは、これまでの実習で記録や準備も苦しかったようでしたが、なにより、「子どもたちへの声掛けの難しさ」を挙げていました。しかし、訪問指導に伺った時には、子どもの前に立ち、堂々と制作活動を行っていました。今回、障がいを持つ子どもとのかかわりを、上記のようにまとめました。

また、彼女は自身の良さと課題を「一人ひとりと関わることが良さであるが、全体を見ることが苦手なため、全体を見つつ気になる子を見たい」「子どもの気持ちを理解して声掛けをしたい。１パターンにならないようにしたい」と考えています。

Gさん

私は、Ｓくんとバッタ取りをして遊んでいました。Ｓくんは「バッタを捕まえる」と言ってはいるものの、見つけても触ろうとしないので、私は捕まえてＳくんに見せて「こわくないから、ちょんと触って」と声をかけましたがそれでも触ろうとしませんでした。

（中略）次の日、私はＳくんに色々なものに触れて新しい発見をしたり、それを他の友達と共感し、保育者がいなくてもその遊びを楽しめるようになって欲しいと思い、また虫探しに誘いました。外に出て少しすると、Ｓくんが「ダンゴムシ」とダンゴムシに近寄りました。私は「捕まえてみたら」と言ってみましたが、Ｓくんは手を後ろに組んでしまいました。私は少しでも慣れてもらおうとダンゴムシを手に取り、「見て、ダンゴムシさんやさしいから噛んだりしないよ」というと、Ｓくんは指でちょんと触りました。私はＳくんが虫を触ったことがうれしく「Ｓくん触れたね。すごいね。ダンゴムシさんどうだった」と聞くと、「ダンゴムシ丸くなった」と言いました。そして実習の最終日にはＳくんは自分で捕まえて私に見せてくれたり、友達と一緒に虫探しをしていました。

（中略）今までの実習で課題であった「子どもの気持ちを考えたつもりになって行動してしまう（子どもが望んでいないのに手伝ってしまう等）」という反省が出てきませんでした。（中略）一人ひとりに合った対応をしなければいけないので、子ども自身がやりたいと主体性を持って活動できるよう声かけを心がけていたため、日々変わる子どもの気持ちをただ考えるだけでなく、知ることを意識していたからではと思いました。

しかし、（中略）子どもが自分で考えるような声かけはあまりできなかったので、今後、子どもが自分で考えられるような声かけをし、見守っていけるように接することを心がけていきたいです。

Ｇさんは、集大成となる次の実習で何をねらいとし、どんな成果を期待するかという問いに「自分の課題と向き合いどう改善していくか考える」「子どもの目線になれるよう考えながら保育する」と記述しました。

ＳさんもＧさんも、クラスの中で他の子どもとのかかわりをなかなか持つことが難しい「Ｓ」という子どもと虫とのかかわりやその子の変化から、自身や他の子どもとのかかわりに視点を広げ、その子の内面に迫ろうとしています。こうした一つひとつの視点の変化を、３週間の実習の成果として学生が自ら取り上げることは、とても大きな成果であると感じます。次の実習がもう目の前に迫っていますが、彼らのさらなる変容に期待していきたいです。

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。
今回は、由田先生からの皆さんへのおすすめです。

PROFILE

教員名

よしだ　あらた
由田　新

担当科目

保育内容演習・保育方法演習・教育原論・保育内容総論・カリキュラム論等

メッセージ

今回は、テレビ番組を紹介しました。お笑いやドラマだけでなく、ETVやBS、深夜番組に好奇心を刺激するような楽しくもマニアックな番組が結構あります。世の中で熱中する人がいるということは、何かそこにとてつもない魅力があるからです。“ヲタクください”などといわずにおもしろがってみて下さい。世の中の見え方が変わってきますよ！

今回紹介するのは“デザイン”についてのTV番組です。子ども向けの番組ですが、大人が見てもおもしろい。身近なところにある様々なモノや空間は、つくり手が使い手のために様々なことを考えに考えて、デザインされているということを教えてくれます。当たり前に思ってしまうモノにも意味がある。つくり手の意図があるのです。たとえば、紙パックの牛乳に付いてるストロー。縦向きに筋が入っていますがなんででしょう？　（答えは番組HPを探してみて下さい！）

皆さんは、保育の勉強をする中で、「環境を通して行う教育」という考え方を学んだと思います。子どもたちに適切な環境を用意して…云々。園の保育環境には、子どもたちの育ちのために、保育者の思いが込められています。そういう意味でいうと、保育者も園環境のデザインを行っているのです。こう考えると、デザインの発想は、保育にもつながってきます。

番組HPには、“子どもたちの未来をハッピーにする「デザイン的思考」を育てる番組”と書かれています。目の前にあたりまえにある「モノ」は当たり前ではなく、そうでなくてはならない理由があったり、そして、その理由から来る「美しさ」があったり、それに気づけると、とてもおもしろいと思います。「デザイン的思考」を持ってみませんか。

卒業生の今

明徳を卒業した先輩たちは、今、どのように働いているのでしょうか。月歩学歩では、さまざまな現場で活躍する先輩たちからの今をお届けします。今回は、知的障害児の施設である槇の木学園で働く先輩を紹介します。

◎今、どのような職場で働かれていますか。

千葉県長生郡にある、睦沢町の槇の木学園で働いて７年目になります。槇の木学園は、知的障害児が様々な事情で家族と離れて暮らすお家です。全部で６つの家に分かれていて、内２つは地域の一軒家を借りて、職員が住み込みで24時間子どもたちと暮らしています。私は現在住み込み職員として、“かわのべ中西寮”で２年目を迎えました。毎日のご飯作りや洗濯・掃除、子どもたちの進路関係なども私の仕事です。自然豊かな睦沢町で子どもたちも学校に遊びにと元気に過ごしています。

◎仕事のやりがいは何ですか。

日々子どもたちが色々な姿を見せてくれることです。何年もかけて取り組んだものが実を結ぶ時。自身のことしか考えられなかった子が、私たちとの暮らしの中で愛される経験を積み、年下の子に優しい言葉を掛けていた時などは感動しますね。甲子園に向けて３年間必死に練習を重ねてやっと甲子園への切符を手に入れた時くらいの感動です。

子どもたちには、自分のことも自分以外の人のことも、同じように大切にして欲しい。思いやりを持った人になって欲しいと思っています。子どもたちと一緒に失敗も成功も繰り返しながら、子どもたちが人として成長していくことが私のやりがいです。

◎今後の夢や展望を教えてください。

１つ目は、槇の木学園のことを沢山の人に知ってもらい、理解してもらうことです。

２つ目は、現在、私は槇の木学園で子どもたちを親御さんから預かる形で子どもたちの成長を支えていますが、いつか私が家庭に出掛けて行き、子どもは家庭で暮らしながら必要な部分の支援を行うことが私の夢です。

中西 結香
37回生
（2007年度卒）

荒松ゼミのメンバーとお茶をしながら語り合ったこと、懐かしい思い出です。ゼミで“人と向き合うことの大変さと喜び”を知りました。

御殿場や隠岐島での実習経験や出会いが今の私に繋がっています！！

＊「荒松ゼミ」は、当時本学専任教員であった荒松先生による２年生の授業「保育方法演習」（通称ゼミ）という授業の名称です。

学生ページ

明徳の「今」を学生たちが発信していくページ。それがこの「学生ページ」です。

７月は学祭ムード一色になり、みんな精一杯準備に取り組んでいます。サークルでのステージ発表、お化け屋敷や各ゼミでの出し物の準備、当日の装飾など、学生一人ひとりが自分にできることは何か？と考えながら作業に取り組んでいます。本番も近づき、みんな一生懸命頑張っています！
（２年：杉本渉）

伝えたい！
日常で感じた
学生たちの
優しさ

金瑛珠

7月17日…「保育原論」の授業では、いつも授業を行う教室とは違う講堂にて、「開始20分後は自由退室」というルールでテストを行いました。授業終了後は椅子を片付けることになっていましたが、終了時間は学生によって違います。しかし私１人で椅子を全て片付けるのは大変…どうすべきか…と悩んだ末、学生にお願いをしました。「退室した人も、時間がある人は授業終了時間に椅子の片付けのために戻り手伝ってくれると凄く助かります」と。実際は、途中でテストを終えた数名がすぐに片付けを始め、机付き椅子60脚はあっという間に片付きました。手伝ってくれていた学生たちは、「終わった人はわざわざ戻っては来ないよ」と言っていました。しかし、授業終了時間になると、たくさんの学生たちが戻って来てくれたのです！　長い昼休みが満喫できる状況だったにもかかわらず…本当に嬉しい気持ちになりました。このような行動ができることが、皆さんの素晴らしさです。これは、学生の素敵な日常での姿を伝えたく、思わず書き連ねた原稿です！

！hot news！

new movements of this month in meitoku

！今月の明徳速報！

７月14日（月）の午後、明徳の講堂には豊かな音楽の時間が流れました。例年は教職員のみで行われていた音楽コンサートでしたが、今年度は教職員と学生とが共に歌い、演奏し、踊るコンサートとなりました。 以下、このコンサートを総括した明石現先生が綴られた言葉です。

この時期、学内を歩いていると、あちらこちらから様々な音色が聴こえてくる。

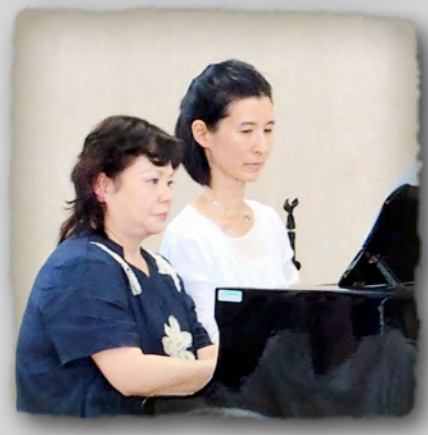
それは、「保育の明徳」には自然なことであり、必然のことと思う。

◇　◇　◇

ここ数年、「音楽表現とピアノI」の授業の一環として、７月に教職員によるコンサートを行ってきた。明徳には、音楽の教員以外にも楽器演奏を得意とする教職員が数多くおり、２年前から恒例の会となっている。昨年、このコンサートを聴いた学生の中から「私たちも出演したい」という声が上がっていたことから、今年は教職員＋学生によるコンサートとして、**「明徳はうたう」**と題し、ジャンルもクラシックのみならず、ポップス、ジャズ、映画音楽の他、ダンス、狂言舞など多彩なプログラムが披露され、教職員と学生が共にうたい、楽しむ素晴らしい時間となった。「感性の育ち」には不可欠な、このような時間が、より広がってゆくことを願ってやまない。

~PROGRAMME of "Singing Meitoku"~

1．「いつか」「夏色」	只野由依（１年）/ 小久保圭一郎【歌・ギター】
2．「掛川」	髙森智子【狂言舞】
3．「タガタメ」	小木曽一公（１年）/ 小木曽宏【歌・ギター】
4．ノミのダンス	深谷ベルタ【口琴】/ 久保谷紀・高橋千耀・中嶋美友（２年）/ 鎌形なつみ・鈴木真実（１年）【ダンス】
5．「みちくさ」「こどもたちとないたりわらったり」	仲智文【歌】・中林忍【ギター】
6．「カヴァティーナ」「赤いスイートピー」	小久保圭一郎【歌・ギター】・明石現【ギター】
7．「満月の夕」	伊藤恵里子【ピアニカ・打楽器】・小木曽一公（１年）【ギター】・髙森智子【リコーダー・打楽器】・田中葵【打楽器】・鶴田真二【歌・ギター】
8．「アニーローリー」	由田新・中島啓（１年）【リコーダー】・明石現【ギター】
9．「ガール・トーク」	片川智子【歌】・小出一豪【ピアノ】
10．「ディズニー・メドレー」	西澤円花・山﨑友希英（２年）【ピアノ連弾】
11．「アヴェ・マリア」 歌劇「ジャンニ・スキッキ」より“私のお父さん”	松本久美子【ソプラノ】・井出香里【ピアノ】
12．「Let it go」「For the first time in forever」	吉浦ゆきの・森田真耶（２年）【ピアノ連弾】
13．「夕方のおかあさん」「竹とんぼに」	田中純子【ソプラノ】・福中琴子【ピアノ】
14．「美女と野獣」	中島啓【サックス】・宇井有未【ピアノ】（１年）
15．オペラ”ラクメ”より 「花の二重唱」「ピエ・イエズ」	田中純子・松本久美子【二重奏】・井出香里【ピアノ】
16．「愛を感じて」～ライオンキング	宗川早苗【トロンボーン】・福中琴子【ピアノ】
17．「ディズニー・メドレー～エレクトリカル・パレード～美女と野獣～イッツ・ア・スモール・ワールド」 「ジブリ・メドレー～君をのせて～さんぽ～となりのトトロ～いつも何度でも～崖の上のポニョ」	井出香里・福中琴子【ピアノ連弾】
18．「うた」「プレリュード～無伴奏チェロ組曲第１番」	久保谷紀・高橋千耀・中嶋美友（２年）・鎌形なつみ・鈴木真実（１年）・田中葵【ダンス】・明石現【11弦ギター】
19．「九十九里浜」「結婚」「子守唄」	菅谷君夫【バリトン】・福中琴子【ピアノ】
20．「この星に生まれて」	全員合唱・古泉佑稀（１年）【指揮】・福中琴子【ピアノ】



MEITOKU SNAP

明徳の８月

1-9/15
・夏期休業

1日（金）
・研修生スクーリング

2日（土）
・学園祭（めいとく広場）

4-8、18-22、25-29日
・保育士資格の為の特例講座

6-9、20-22、25-27日
・メディア・コミュニケーション（１年生）

6-9日
・研修生県外研修（帯広）

10、24日
・オープンキャンパス

10、19、24日
・公開授業

16日
・第44回スターバックスお話ライブ

16-18日
・東北スタディツアー

20-23日
・研修生県外研修（鹿児島）

21-26日
・教員免許更新講習

編集後記

今月号は「共有する/つながる」をテーマにお送りしました。自らの学びをつなげていく、学年を越えてつながり共有する、そして学校の枠を越えて…。先の大震災後、世の中では「絆でつながろう」や「ひとつになろう」などの言葉が多く聞かれました。これらは耳障りのいい言葉ですし、もちろん悪いことではありません。しかし、10人居れば10人の、100人居れば100人それぞれの考えや想いがあるでしょう。「つながる」ことは、そうそう簡単なことではないと思います。本当の意味でつながるには、相手の考えや想いを受け止め、それが自分と異なるものであってもその違いを恐れず、まずは認めるところから始まるのではないでしょうか。明徳では、学年や学校の枠を越えてつながり共有することを大事にしていますが、このようなことを忘れずにいたいものです。さて、次回の月歩学歩は夏休み明け、8・9月合併号としてお届けします。夏休みといえど、学生たちは実習やボランティア、フィールドワークに大忙し。後期、一体どんな表情の彼らに逢えるでしょうか。息抜きや遊びも大事にして、充実した夏休みを過ごしてほしいと願っています。（伊藤）

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

http://
chibameitoku.blog53.fc2.com

発行：千葉明徳短期大学
千葉市中央区南生実町1412
Tel :043-265-1613
Fax:043-265-1627
mail:tandai@chibameitoku.ac.jp
URL:http://
www.chibameitoku.ac.jp/
tandai.html

編集
田中 葵
伊藤 恵里子
髙森 智子

読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。